

Pro Tools HD 7.4.1 on Mac

for Pro Tools|HD Accel Systems on Mac OS X 10.5.1 (“ Leopard ”) Only

このドキュメントには、Mac OS X 10.5.1 (9b2117) が起動する "Harpertown" Mac Pro コンピュータ上で動作する、Pro Tools HD 7.4.1 に関する重要な互換性情報や既知の問題点、エラー・コード及びユーザー・ガイドの訂正事項等が記載されています。

互換性

Digidesign は、同社が動作確認を行ったハードウェア及びソフトウェア環境のみを互換 / 対応情報として提供しています。動作確認済みのコンピュータ、オペレーティング・システム及びサードパーティ製品等に関する最新情報は、Digidesign の Web サイト (www.digidesign.com/jp) でご確認ください。

Mac Pro の Slot 4 へ HD カードをインストールする

Mac Pro のスロット 2 及び 3 へ HD カードをインストールした後に、スロット 4 へもカードをインストールする場合は以下の追加ステップが必要です：

Mac Pro の Slot 4 へ HD カードをインストールするには：

- 1 Mac Pro から全ての SATA ドライブ・トレイを取り除きます。
- 2 SATA トレイがあった場所にカードを動かします。
- 3 まず、奥にある PCIe スロットへカードのリアを配置します。
- 4 カードのフロントを、PCIe スロットとぴったり合うようにします。
- 5 SATA ドライブを元に戻します。
- 6 コンピュータのケースを閉じます。

サードパーティ・プラグインの互換性

現在出荷中のサードパーティ製プラグインの中には、Mac OS 10.5.1 上で起動する Pro Tools 7.4.1 と互換性のないバージョンも存在します。Digidesign は開発パートナーとの協力の下、各社製品と Pro Tools の互換性を最大化するよう勤めていますが、現状ではこれらの製品に対する公式なテスト及び推奨は成されていません。サードパーティ製品に関する最新の互換性情報は、Digidesign のウェブサイト (www.digidesign.co.jp) をご覧ください。

- ・ 現状で MassivePack 6 及び全ての HD Pack プロモーションに収められている全てのプラグインは、Mac OS X 10.5.1 とともに Pro Tools 7.4.1 との互換性を有します。
- ・ Ignition Pack 及び Ignition Pack 2 に収められているサードパーティ製品の中には、Mac OS X 10.5.1 対応バージョンへアップデートが必要なものもあります。これらの製品向けアップデートに関する情報は、各アップデートが利用可能な状態になり次第、Digidesign のウェブサイト (www.digidesign.com/jp) をご覧ください。



各社製品に関する最新情報は各開発パートナーのウェブサイトをご覧ください。

Mac OS 拡張 (大文字 / 小文字を区別) でフォーマットされたドライブへはレコーディングできません (Item #66749)

Pro Tools は、Mac OS 拡張 (大文字 / 小文字を区別) でフォーマットされたドライブへレコーディングできません。正しくレコーディングできるよう、Mac OS X の録音ボリュームを「Mac OS 拡張(ジャーナリング)」にフォーマットしてください。

UL5D ホスト・バス・アダプタと ATTO コンフィギュレーション・ツール

UL5D ホスト・バス・アダプタがシステムにインストールされている場合は、ATTO コンフィギュレーション・ツールを使用し、正しいドライバとファームウェア及び設定がなされていることを確認する必要があります。Pro Toolsのインストーラ・ディスクの ATTO Utilities フォルダに収められた Read Me ファイル（英語版）にインストラクションが記載されています。認可された ATTO ドライバのバージョンに関しては、Digidesignのウェブサイトをご覧ください。最新のドライバが必要な場合は、ATTO Technologies のウェブサイトからダウンロードできます。

データベース・ファイルの互換性

Pro Tools 7.x は新しい Digidesign データベースのファイル形式を必要とします。Pro Tools のバージョン 6.x で作成されたデータベース・ファイルは、Pro Tools 7.x の初回起動時に削除されます。検索速度を上げるために、使用されているドライブを再インデックスしてください。DigiBase データベースのインデックスに関する詳細は、*Pro Tools リファレンス・ガイド*をご覧ください。

DigiBase Pro のカタログ・ファイルは削除されませんが、アップデートする必要があります。ご注意ください。Pro Tools の起動の際に、既存カタログの変換もしくは破棄を促すウィンドウが表示されます。

Mac OS X 10.5.1 用 Pro Tools 7.4.1 に関する既知の問題点

ここでは、Mac OS X 10.5.1 用 Pro Tools 7.4.1 の使用時に生じる可能性のある問題点と、その回避方法について記載しています。

Mac OS X 10.5.1 用 Pro Tools 7.4.1 は、Avid ビデオをサポートしていません

Mac OS X 10.5.1 用 Pro Tools 7.4.1 は、Avid ビデオをサポートしていません。最新の互換性情報に関しては、Digidesign のウェブサイト（www.digidesign.com/jp）をご覧ください。

Pro Tools を起動すると "Digidesign ハードウェアは別のアプリケーションに使用されています" という内容のエラー・メッセージが表示される (Item #99576)

Mac OS X 10.5.1 は、CoreAudio クライアントでないアプリケーションの起動時であっても、そのスタート（またはログアウト、再ログイン）後に Digidesign CoreAudio ドライバを自動的に起動します。この場合、Pro Tools の起動前に手動で Digidesign CoreAudio を終了する必要があります。Pro Tools のインストール後、Digidesign CoreAudio ドライバは、Mac OS X サウンド環境設定における初期設定デバイスをなります。Mac OS X のサウンド環境設定において、サウンド出力及び入力デバイスの初期設定を変更することで、この問題を回避できます。

Pro Tools で使用する Mac OS X 10.5.1 用キーボード・ショートカットを無効に設定する (Item #100718 and 100111)

Pro Tools のキーボード・ショートカットをフル活用するには、以下の Mac OS X 10.5.1 キーボード・ショートカット環境設定を無効またはリマップする必要があります。

- "ヘルプメニューを表示"
- "Dock, Expos, and Dashboard" 内
 - "全てのウィンドウ"
 - "アプリケーション・ウィンドウ"
 - "デスクトップ"
 - "ダッシュボード"
 - "スペース"
- "Spotlight" 内
 - "Spotlight 検索フィールドを表示"
 - "Spotlight ウィンドウを表示"

異なる Mac OS X 10.5.1 Space 内でセッションを開くとフローティング・ウィンドウが行方不明になる (Item #100717)

Mac OS X10.5.1 の、ある Space 内で Pro Tools セッションを保存及び Pro Tools を終了した後に、別の Space 内で Pro Tools を起動すると、セッション保存時に開いていたはずのフローティング・ウィンドウが、新しい Space では表示されない場合があります。これらのウィンドウを表示させるには、セッションがもともと保存されていた Space へ Pro Tools をスイッチする必要があります。

Xpand! プラグインの FX 2 設定を変更すると、Pro Tools が予期せず終了する (Item #100537)

Xpand! 上で、インストゥルメント B 用に Sitar プリセットを選択した後で FX2 の設定を Chorus から Bi-phaser へ変更すると、ProTools が予期せず終了する場合があります。現在、この問題に関するワークアラウンドはございません。最新の互換性情報に関しては、Digidesign のウェブサイト (www.digidesign.com/jp) をご覧ください。

Slightly Rude Compressor を RTAS から TDM プラグインへ変換すると -4 エラーが発生する (Item #100660)

Slightly Rude Compressor は、RTAS から TDM プラグイン・フォーマットへ変換しないようご注意ください。Slightly Rude Compressor を RTAS から TDM プラグイン・フォーマットへ変更するためには、RTAS プラグインを TDM プラグインとして再インサートしてください。

QuickTime ビデオと一緒にプレイバック・スタート・タイムが遅延する (Item #100550)

Pro Tools セッションが QuickTime ビデオを含んでいる場合、プレイバックが開始されるまでに著しく時間がかかることがあります。これは OS X 10.5.1 における QuickTime の問題です。より早いプレイバック・レスポンスを得るには、QuickTime ビデオ・トラックを削除してください。最新の互換性情報に関しては、Digidesign のウェブサイト (www.digidesign.com/jp) をご覧ください。

既知の問題点 (Pro Tools 7.4)

以下は Pro Tools 7.4 において確認済みで、Pro Tools 7.4.1 の使用時も発生する可能性のある既知の問題点と、その回避方法です。

Pro Tools

メモリーロケーションのコメント欄の文字数増加 (Item # 83593)

Pro Tools7.3 以降では、メモリーロケーションのコメント欄で許容される文字数が増加しました。以前のバージョンの Pro Tools で Pro Tools 7.3 以降のセッションを開くと、258 文字を超えたテキストは、メモリーロケーションのコメント欄に表示されません。

バス経由でオーディオ・トラックヘルレーティングした際のメイン出力 (ステム) の遅延 (Item #86709)

AOS 可能なバーチャル・インストゥルメントにおいて、バス経由でオーディオ・トラックの入力へ接続されていると、そのメイン出力が揃わないことがあります。これは、セッション内で AOS ルーティングを作成、または AOS ルーティングを持つセッションを開いた際に起こります。この現象は、自動遅延補正をオン / オフにトグルすることで回避できます。

Video Satellite は、選択範囲が 1 秒以下の場合のループ・プレイバックをサポートしません (Item #93743)

Video Satellite とともにループ・プレイバックをする際に、選択範囲が 1 秒以下になっていると、数回ループした後に停止、または Media Station 上に「現在 Pro Tools は再生できません」という旨のダイアログが表示されることがあります。この場合、選択範囲を 1 秒以上に設定してください。

遅延補正に関する修正 (Item# 97571)

以前のバージョンの Pro Tools では、" 常時補正 " モードの使用時に誤ったディレイを適用していることがありましたが、この問題は修正されました。" 常時補正 " モードとは、遅延補正が保留されていたトラックに遅延補正を適用できる機能のことを言います。遅延補正機能を使ってオーディオ・トラック上の正確なモニタリング・レイテンシを維持するためには、インターナル・ソースから Pro Tools へレコーディングする際に " 常時補正 " モードをオンに設定する必要があります。遅延補正に関しては、これにより、ディスク・トラックを Aux 入力トラックのように振る舞わせます。" 常時補正 " モードをオンにするには、遅延補正表示がオンになった状態でミックス・ウィンドウに表示される [トラック補正インジケータ] を Start-Control-click (Windows) または Command-Control-click (Mac) します。

[RTAS Error Suppression (RTAS エラー抑制)] 有効時は、CPU 使用限度に達する可能性がある (Item #83343)

CPU 使用限度を 85% 以上で [RTAS Error Suppression (RTAS エラー抑制)] を有効にした場合、コンピュータがオーバーロードしてレコーディングができなくなる場合があります。[RTAS Error Suppression (RTAS エラー抑制)] を有効に設定しているときは、CPU 使用限度を 80% 以下に設定してください。

[RTAS Error Suppression (RTAS エラー抑制)] を有効にして、CPU 使用限度を高く設定していると、画面のリドローがスローダウンする (Item #82915)

[RTAS Error Suppression (RTAS エラー抑制)] を有効にして、CPU 使用限度を 85% 以上に設定すると、画面のリドローやバックグラウンド CPU タスクがスローになる可能性があります。RTAS Error Suppression を使用中にこれが起きた場合、プレイバックエンジン・ダイアログを開いて、CPU 使用限度を 5 ~ 10% 低くしてください。

インストゥルメント・トラックや Aux 入力にソフトウェア・インストゥルメントをインサートしても音が出ない (Item #65797)

ソフトウェア・インストゥルメントの中には、適切なハードウェア・インプットまたは MIDI アウトプットをアサインしないと音も出ず、再生もしないものがあります。これが起こった場合は、ハードウェア・インプットをインストゥルメント・トラックまたは Aux インプットに、MIDI アウトプットをインストゥルメント・トラックへ手動でアサインします。

レガシー・ペリフェラルの使用 (Item # 68381)

特定の I/O コンフィギュレーションにおいては、Hardware Setup 設定画面でレガシー・ペリフェラルを使用すると設定した後も、I/O 設定画面にそのレガシー・ペリフェラルが表示されない場合があります。これらは一度 Pro Tools を終了し、Pro Tools を再起動した後に表示されます。

レガシー・ペリフェラルの設定変更 (Item #69070)

ハードウェア・コンフィギュレーションの中には、本来使用が可能であるにも関わらず、Pro Tools を 48 kHz のサンプルレートで使用するとレガシー・ペリフェラルが認識されず、ペリフェラル設定が Hardware Setup 画面で実行できない場合があります。この問題が発生した場合は、いったん Hardware Setup 画面でレガシー・ペリフェラルの使用を取り消し、再度レガシー・ペリフェラルを使用するよう設定してください。

ワークスペース・ブラウザ内で、特定ファイルのエラスティック分析計算 / クリアができない (Item #89026)

エラスティック・オーディオによりサポートされるファイル・フォーマットの拡張子が付いているにもかかわらず (.WAV または .AIF)、Pro Tools のワークスペース・ブラウザがエラスティック分析の計算またはクリアを実行できない場合がごく稀に存在し、ブラウザ・メニューの [エラスティック分析を計算] 及び [エラスティック分析をクリア] がグレイアウトします。このような場合は、実際にファイルが非サポートのフォーマットである可能性があります。ファイル・フォーマットを確認するために、ワークスペース・ブラウザのフォーマット欄をご覧ください。QuickTime などの WAV または AIFF 以外のファイル・フォーマットが示されている場合は、エラスティック分析の計算またはクリアを実行することはできません。とはいえ、これらの非サポート・ファイルはテンポに合わせて視聴することも、セッションヘインポートすればエラスティック化することもできます。

Pro Tools 5.1 ~ 6.9 フォーマットでセッションを保存した際にリージョン・ループが欠落する (Items #90102, 90079)

5.1 ~ 6.9 でセッションを保存すると、「リージョン・ループが失われます」という旨のダイアログが表示されます。これを回避するためには、Pro Tools の下位バージョンでセッションを保存する前に、[リージョン] > [ループ解除] > [フラット] を実行します。

エラスティック・オーディオをモノフォニックまたは X-Form アルゴリズムで使用した際、オーディオ・ファイル内にドリフトが発生する (Item #96151)

エラスティック・オーディオを使用する際にオーディオ・リージョン内にドリフトが発生することがありますが、これはリージョンがモノフォニックまたは X-Form アルゴリズムを使用してどの程度伸縮されるかに依存します。トランジェント情報を持つ素材にエラスティック・オーディオを使用し、かつドリフトを回避したい場合は、ポリフォニックまたはリズムミック・アルゴリズムをご使用ください。

異なるテンポの Reason ソングを開いた後、ティックベース・トラック上のオーディオ・リージョンが正しいテンポで再生されない (Item #96710)

セッションと異なるテンポの Reason ソングを開くと、ティックベースのトラック上にあるオーディオ・トラックが正しいテンポで再生されないことがあります。コンダクターまたはマニュアル・テンポ入力経由でテンポ変更を施すと、リージョンは正しく再生されます。

Beat Detective の [小節 | 拍マーカーを生成] でテンポマップを作成すると、レンダー・モード内のリージョン・グループがオフラインになる (Item #97993)

Beat Detective の [小節 | 拍マーカーを生成] でテンポ・マップを作成すると、レンダー・モードのリージョン・グループがオフラインになることがあります。オフラインになったリージョンに編集を加え、エラスティック・オーディオをレンダーからリアルタイムに変更し、再度レンダー・モードへ戻すことでオンラインになります。

リアルタイム・エラスティック・オーディオ・トラックの波形表示 (Item #98343)

エラスティック・オーディオのリアルタイム・プロセッシングを使用している場合、使用しているアルゴリズムに関わらず、Pro Tools にはヴァリスピードの波形が表示されます。これは、全てのエラスティック・オーディオ・プロセッシングがリアルタイムに処理され、波形自体はどのようにサウンドするかの予測であることに起因します。レンダー・モードへ切り替えることで、使用しているアルゴリズムによってレンダーされた場合の実際のオーディオの様相を視認できます。

オーディオをインポートすると、IXML メタデータを持ったステレオ・インターリーブ WAV ファイルが 2 つの個別のモノ・トラックに分割される (Item #98841)

オーディオをインポートすると、IXML メタデータを持ったステレオ・インターリーブ WAV ファイルが 2 つの個別のモノ・トラックに分割される場合があります。ワークスペースを使用して、ファイルを編集ウィンドウまたはステレオ・トラック上に直接ドラッグしてください。

セッションのテンポでインポートされたエラスティック・オーディオ用「デフォルト・インプット・ゲイン」(Item #96725)

[初期設定] > [プロセッシング] ページにある [エラスティック・オーディオ] > [デフォルトインプットゲイン] は、セッション・テンポでインポートされたエラスティック・オーディオ用の設定です。ワークスペース内の [コンテキスト視聴] がオン、またはプロセッシング初期設定ページ内の [デスクトップからのドラッグ&ドロップはセッション・テンポに合わせる] がオンに設定されていない限り、この初期設定オプションは機能しません。

エラスティック・オーディオを含んだリージョン・グループは、そのリージョン・グループ自体にエラスティック機能が適用されていない場合、エラスティックとして認識されない (Item #92770, #97107)

リージョン・グループ内にエラスティック・オーディオが含まれているが、リージョン・グループ自体の最外層においてエラスティック・オーディオ操作がなされていない場合は、そのリージョン・グループはエラスティック・オーディオとして認識されません。新規トラック作成に用いられる場合、トラックは自動的に [エラスティック・オーディオ 有効] には設定されず、リージョン・グループ内のエラスティック・オーディオは、そのセッション用のデフォルト・エラスティック・オーディオ・プラグインを使用してレンダーされます。これは、リージョン・グループにワーブ・マーカーを追加して、強制的にエラスティック・リージョンと認識させることで回避できます。または、[エラスティック・オーディオ 有効] に設定したトラックを最初に作成した後に、リージョン・グループを追加します。

[ソース・メディアから統合] オプションを使用してエラスティック・オーディオをインポートできない (Item #96404)

[ソース・メディアからコピー] を使用して、エラスティック・オーディオ・トラックへインポートしてください。

AudioSuite とリージョン・グループ (Item #64410)

オーディオ・ファイルとリージョン・グループでは、AudioSuite プラグインの処理がわずかに異なります。オーディオに関しては、“リージョンリスト参照”を選択して、“プレイリストに使用”を選択したりすると、AudioSuites プロセスがセッション内に現れるオーディオ・ファイルの全コピーへ適用されます。しかし、リージョン・グループを選択中に、ターゲットが AudioSuites プラグイン・ウィンドウ内の“リージョンリスト参照”にセットされていると、Pro Tools はリージョン・グループをプロセス可能なオーディオと認識せず、“オーディオが選択されていません”というエラーが現れます。これは、実際にトラックの中で使用されるまで、リージョン・グループが“オーディオ”ユニットとして認識されないために生じます。

セッション内にあるすべてのリージョン・グループのコピーに、瞬時に AudioSuite を適用するには、下記の通りにします。

- 1 プロセスするリージョン・グループを選択します。
- 2 リージョン・メニューから [すべてのグループ解除] を選択します。グループ内の全要素が選択されたままの状態になります。
- 3 AudioSuite プロセスを実行します。
- 4 リージョン・メニューから [再グループ] を選択します。

プロンプトが表示されたら、セッション内のリージョン・グループの全コピーへ AudioSuite を適用する場合は“修正”を選択し、選択されたリージョン・グループのみに適用する場合は“コピー”を選択します。

復旧されたセッションを開いた後のプレイバックエンジンへのアクセスについて (Item#54319)

セッションファイルの自動バックアップを使い保存されたファイルを開くときは、一度新しく名前をつけ、保存しなおしてください。そのままですとプレイバックエンジンにアクセスできないことがあります。

アドミン権限の無いユーザーが、QuickTime ムービーを含むセッションを開いた時に、そのセッションを再生できない問題 (Item #47053)

もしアドミン権限がなく、Quick Time への承認が無いユーザーが、QuickTime ムービー付きのセッションを開いた場合は、「Quick Time ムービー・ファイルが無く再リンクしますか」というダイアログが表示されます。再リンクウィンドウでは、そのムービー・ファイルを見つけ再リンクしたかのように「f」が、依然再生することはできません。再生できるようにするには、Quick Time ファイルへの承認をすることになります。

選択されている多数のリージョンをコンパクト化する。(Item #40541)

大きいセッションで、多数選択されているリージョンをコンパクト化する際、以下のようなエラーが表示されます。“Assertion in Cmm_Interval.cpp, line 103.”もしこのエラーが特定のセッションのみで繰り返し起きるようであれば、[ファイル]>[セッションのコピーを保存]を選択して、別名で別のハードディスクをコピーしなおしてから再度行ってください。

タイムスタンピングとデストラクティブ・パンチ用トラック (Item #67054)

デストラクティブ・パンチ用トラックの作成後もセッション・スタートを変更できるため、そのトラックのオリジナル・タイムスタンプは正確ではない可能性があります。正確なタイムスタンプが必要な場合は、リージョン・リストからタイムスタンプ機能を使用して、作成されたリージョンを再度タイムスタンプします。

MP3 Codec は著作権保護されたファイルをエクスポートしない (Item #68985)

Pro Tools 7.3 以降における新しい MP3 Codec は、著作権保護されたファイル属性をエンコードする機能はありません。これはフラウンホーファーの新しい Codec 制限です。

Pro Tools 7.x で 48kHz セッションを MP3 へバウンスすると、44.1 kHz の MP3 ファイルが生成される (Item #72617)

320kbps 以外のビット・レートで、変換クオリティを [最良(最も長時間の処理)] と設定して MP3 へバウンスすると、44.1 kHz のファイルが生成されます。これはエンコーダの既知の制限です。

QuickTime オーディオ・フォーマットの中にはインポートできませんものがある (Items #58792, 73064)

Apple Lossless または AMR オーディオで圧縮された QuickTime ムービーのオーディオは、Pro Tools へインポートできません。QuickTime Pro またはその他のアプリケーションを使用して、インポートする前に、オーディオを別のオーディオ・フォーマットへ変換してください。

Apple Lossless Codec は QuickTime ムービーへのバウンスをサポートしていません (Item #75224)

Pro Tools 7.3 以降は Apple Lossless オーディオ・コーデックをサポートしていません。[QuickTime ムービーへバウンス] のオーディオ圧縮ダイアログからこれを選択すると、使用可能なオーディオを含まないムービーが生成されます。

DigiBase

巨大な DigiBase カタログの変換には数時間を要する場合があります (Item #77636)

過去の極端に大きいカタログ (10,000+ 参照ファイル) を変換するには、数時間を要する場合があります。このため、生産性を妨害しない程度に、適宜カタログを変換するようお勧めします。カタログが変換されるまで、Pro Tools の起動時に毎回プロンプトが表示されますが、変換準備が整うまでこれらのプロンプトを無視できます。一度変換されると、この問題は再現しません。

AAF シーケンスや MXF ファイルのタイムコード・フォーマットが 30 fps 以上の場合、DigiBase のフレームレート欄に異なるレートが表示されます (Item #72538)

AAF シーケンスが 30 fps 以上のフレームレートの MXF メディア・ファイルを参照している場合、DigiBase では正しいフレームレートの半分の数値が表示されます。例えば、59.94 fps のファイルは 29.97、50 fps のファイルは 25 fps と表示されます。セッション設定ウィンドウのタイムコード 2 ルーラーは、フル・フレーム・レートを表示するために使用することができます。

タスクウィンドウ内に "File Is Busy (-47)" というエラーが表示されます (Item #22832)

管理権限を持っていないファイルを削除しようとする、タスクウィンドウ内に "File Is Busy (-47)" とエラーが表示され、ファイルを削除できません。「読み/書き」権限を持っていないファイル、またはディレクトリを削除することはできません。

Out of Memory (-108) エラー (Item #27391)

ディスク・スペースが残り僅か、あるいは全くないボリュームの索引をアップデートしようとする、"Out of memory (-108)" エラーが発生します。

プラグイン

Structure 及び Goliath インストーラでは、サンプル・コンテンツは自動インストールされません (Item #99595)

Structure 及び Goliath インストーラは、それぞれのサンプル・コンテンツを自動的にインストールする訳ではありません。サンプル・ライブラリを各インストーラ DVD からハード・ドライブへ、手動でコピーする必要があります。

Structure サンプル・コンテンツをインストールするには:

- 1 Structure インストーラを起動します。
- 2 Structure のインストール後、Structure DVD 1 インストーラ・ディスクからお使いのハード・ドライブ上の以下のロケーションへ、"Samples DVD 1" フォルダを手動でコピーします。
/Structure/Structure Factory Libraries/Structure Encrypted Samples
- 3 残りのインストーラ・ディスクをコンピュータへ挿入して、ハード・ドライブ上の Structure Encrypted Samples フォルダへ、各ディスク上の "Samples DVD" フォルダをコピーします。

Goliath サンプル・コンテンツをインストールするには:

- 1 Structure がインストールされていることを確認します。
- 2 Goliath インストーラを起動します。

- 3 Goliath のインストール後、Goliath DVD1 インストーラ・ディスクからお使いのハード・ドライブ上の以下のロケーションへ、"Samples DVD 1" フォルダを手動でコピーします。

/Goliath - Structure Edition/Samples

- 4 残りのインストーラ・ディスクをコンピュータへ挿入して、ハード・ドライブ上の Samples フォルダへ、各ディスク上の "Samples DVD" フォルダをコピーします。

X-Form AudioSuite の視聴パフォーマンス (Item #96728)

Polyphonic モードで Formant スイッチが入った状態で視聴をすると、フォルマント・プロセッシングは、視聴ループが 2 周目になるまで作用しません。さらに、Polyphonic モードで視聴中にフォルマント修正が行われると、スロー・プロセッシングによるオーディオ・ドロップアウトが発生します。

7.x 対応プラグイン及び追加オプション・ソフトウェアのデモ・モード

Digidesign 7.x プラグイン及び Pro Tools 7.x 追加オプション・ソフトウェアには、期間限定のデモ版は含まれません。その代わりに、これらプラグイン及び追加オプションのデモ版を使用するには、iLok USB キー及びデモの iLok ライセンスが必要です。デモ・ライセンスの取得を希望される際は、Digidesign ウェブサイト (www.digidesign.com) の、其々の製品ページにて Demo ボタンをクリックしてください。

SignalTools は 192kHz TDM 及び RTAS をサポート (Item #79188)

サンプルレートが 192 kHz のセッション内で、SignalTools の TDM 6.1-, 7.0- 及び 7.1 チャンネル・バージョンを使用すると、DAE -7077 エラーを引き起こします。低バッファサイズでポップまたはクリック・ノイズを発生する場合は、512 またはそれ以上の HW バッファサイズ設定で RTAS バージョンの SignalTools をご使用ください。

SignalTools Lissajous Meter のグラフィック・ノイズ (Items #73263)

プラグインへオーディオをフィードすると、Lissajous Meter にグラフィック・ノイズが現れます。プレイバックエンジンで選択されたプロセッサ数が最大でない場合、RTAS バージョンの SignalTools では TDM バージョンとは異なり、後光のようなグラフィック・ノイズが生じます。

ファイルとディスク・マネージメント

フォルダ階層を保持して [セッションのコピーを保存] されたセッションを開くと、ファイルが見つからなくなる (Item #74454)

フォルダ階層を保持する機能は、複数ボリュームに分割されたメディアを含むセッションが、フォルダ階層を保持しながら、システム間を簡単に移動できるようデザインされています。メディア・ファイルを自動的に発見するためには、各ボリュームの第一階層に、Audio Files または Video Files を含むセッション名のフォルダを、手動でコピーまたは作成してください。あるいは、現在のロケーションで見つからないファイルを手動で再リンクします。

同じファイル名が複数存在するフォルダの階層を保持しながら、セッションのコピーを保存すると、正確に再リンクしない (Item #79868)

フォルダ階層を保持にチェックを入れてセッションのコピーを保存すると、手動再リンク時に、同名のファイルが正確に再リンクしない可能性があります。セッションのコピーを開くときは、正しいファイルをロケートするために、自動で再リンクを使用してください。[手動で再リンク] を使用してセッションを開き、それでもオフラインのファイルがある場合は、プロジェクト・ブラウザから [オフラインで再リンク] を選択して、残りのファイルを手動で再リンクします。

コントロール・サーフィス

D-Control 及び D-Command のファームウェアをダウンロードする (Item #46015, 46990 and #58102)

D-Control または D-Command のファームウェア・アップデートをダウンロードしている際に、メインユニットのモニターセクションのノブは触らないでください。または、ファイルをコンピューターへ移動しないでください。ファームウェアのダウンロードに失敗する可能性があります。

D-Control または D-Command からプラグイン・パラメータをリセットする (Item #62263)

標準の Pro Tools ショートカット・キーを使ったり、パラメータにマップされているエンコーダを触ると、D-Control や D-Command のプラグイン・パラメータをリセットできます。Option キーを押しながら、リセットしたいパラメータ用のエンコーダを触ります。

D-Control 及び D-Command でのズーム用ショートカット

現在、D-Control と D-Command は下記をサポートしています：

選択範囲をズーム・イン/アウトするには：

- Alt(Windows) または Option(Macintosh) - [Zoom] スイッチを押します。

ズーム・アウトしてセッション全体を表示するには：

- [Zoom] スイッチを 2 回押します。

コントロール・サーフィス上での SignalTools メーター (Item #74340)

SignalTools RMS, VU, BBC, Nordic 及び DIN メーターは、コントロール・サーフィス上で見ると、不適格なディケイ・タイムを表示します。コントロール・サーフィスへ Peak メーターを報告するだけの Peak, VENUE 及び Peak + RMS の場合は影響しません。影響を受けるのはディケイ・タイムのみで、アタック・タイムには影響しません。プラグイン・ウィンドウでは、全てのメーター・タイプが正確に表示されます。

ICON フェーダーの再キャリブレート時は、Pro Tools のトランスポートを止める必要があります (Item #78074)

D-Command 及び D-Control のフェーダーを再キャリブレートする場合、Pro Tools のトランスポートは停止する必要があります。1 つまたはそれ以上のフェーダーにキャリブレーションが必要な場合は、以下のようにしてください：プレイバックをストップし、Utility モードへ入り、TEST、FADER、RECAL を順番に押します。フェーダーを再キャリブレートしたら、Utility モードを終了します。

MIDI

MIDI レコーディング中に、[ノート待ち] 機能が ReWire からの MIDI 入力に反応しない (Items #90724, #97444)

MIDI レコーディングを演奏する際、[ノート待ち] 機能が ReWire から受ける MIDI に反応しないことがあります。ReWire アプリケーションから生成される MIDI をレコーディングする場合、手動でトランスポートをスタート、または [ノート待ち] の代わりに [カウントオフ] を使用する必要があります。

リアルタイム MIDI プロパティが有効に設定されていて、さらにダイアトニック・トランスポーズを使用するよう設定された MIDIトラックにセッション・データをインポートした場合、トランスポーズはセッション内の最初のキーを元に行われます (Item #81666)

複数のキー (調) と、リアルタイム・プロパティのキー・トランスポーズが有効に設定された MIDI またはインストゥルメント・トラックを含むセッションから、セッション・データをインポートすると、トランスポーズはセッション内の最初のキーをベースに行われます。これは、ダイアトニック・トランスポーズが各キーに対して正しくなる場所で、リアルタイム・プロパティをオン/オフ切り替えると補正できます。

バーチャル楽器で MIDI クリックを使用する際の問題点 (Item #43057)

バーチャル楽器で MIDI クリックを使用する際、Wait for Note が有効になっているとクリックは演奏されません。また、初めのクリックは演奏されません。この問題を回避するには、クリックを別の MIDI 機器にアサインするか、Click プラグインを使用する必要があります。

同期とマシンコントロール

シリアル・タイムコードでの録音 (Item #64636)

Tascam DA-98 のサーヴォ・ロック・ビットにより、実際にはサーヴォ・ロックされていないが、DA-98 がサーヴォ・ロックされていると Pro Tools が判断することがあります。これにより、Pro Tools が DA-98 から生成されたシリアル・タイムコードにロックする際に、同期のオフセットが生じる可能性があります。現在、この問題は改善されていますが、もしこの問題が出た場合は、[タイムコードにロックする前の遅延] でフレームを 10 まで増加させます。

SSL コンソールと Soundmaster コントローラーを併用すると画像のアップデートが間に合わない場合があります (Item #52394)

Soundmaster コントローラーに接続された SSL コンソールにて巻き戻し及び早送りを行なうと、Pro Tools 上の画像のアップデートが間に合わない場合があります。この問題は Soundmaster の設定に起因している可能性があります。Soundmaster コントローラーの Self Goto Rate 値がゼロに設定されている事を確認して下さい。(詳細に関しては Soundmaster の関連書類を参照して下さい)

ビデオ

サポートされない QuickTime ビデオ・フォーマット (Items #72933, 72956, 72958, 72961)

QuickTime でサポートされるビデオ・フォーマットの中には、ProTools ではサポートされないものがあります。これらには .DivX, .flc, .m4v 及び .3gp フォーマットが含まれています。これらのフォーマットをインポートしようとすると、エラーの発生やインポートの失敗を引き起こします。

シャッフル・モードで、Macintosh Finder からのビデオ・ドラッグは正確に機能しません (Item #78451)

シャッフル・モードのときにデスクトップから編集ウィンドウへビデオ・ファイルをドラッグすると、必ずセッション・スタートにそのビデオは配置され、既存のビデオ・リージョンを上書きします。

QuickTime ムービー・トラックの編集密度が高くなると、Pro Tools の UI 速度が落ちる可能性があります (Item #77720)

1 つまたはそれ以上の QuickTime ビデオ・トラックの編集が複雑になるにつれ、Pro Tools のレスポンスが遅くなる場合があります。複雑に編集された QuickTime クリップとともに作業している場合は、Pro Tools のレスポンスは低減します。この場合は、一度 QuickTime ムービーへバウンスしてから、そのバウンス・ファイルをインポートしてください。

MPEG-1 及び MPEG-2 が編集点でフリーズする (Item #79182)

MPEG-1 及び MPEG-2 ビデオのエディットは、公式にはサポートされていません。この問題が起こった場合は、プレイバックをビデオ・ウィンドウへ切り替える、またはサードパーティ製アプリケーションを使用して、ムービーをサポートされるフォーマットへ変換してください。サードパーティ・アプリケーションによって MPEG-1 または MPEG-2 からオーディオを除去することで、この問題が解決する場合があります。

多重化された MPEG-1 及び MPEG-2 ムービーのオーディオがインポートされず、バウンスされたムービー内で聞こえない (Item #76063)

他の QuickTime フォーマットと違い、MPEG-1 や MPEG-2 ムービーは、オーディオとビデオを単一の多重化トラックへ記憶します。Pro Tools は、これらのタイプのムービーのビデオからオーディオを分離させることはできません。結果として、MPEG-1 または MPEG-2 ムービーかたオーディオをインポートすることはできません。また、ソース・ムービーとして MPEG-1 や MPEG-2 ムービーを使用して [QuickTime へバウンス] する場合は、そのムービーからのオリジナル・オーディオはバウンスされたムービーの中に現れます。(Pro Tools での作業中に聞こえていないとしても) MPEG-1 または MPEG-2 ファイルからオーディオをインポートするためには、サードパーティ製アプリケーションを使用して MPEG ストリームを“分離”してください。

QuickTime へバウンスする際は、既存のムービー名でバウンスしない (Item #76768)

[QuickTime へバウンス] コマンドを使用する場合は、既存のムービーと同じ名称を使用するとバウンスに失敗します。各バウンスにはユニークな名称を使用する、または同名でバウンスする前に (既存ファイルと置き換えるのではなく) ドライブから以前のムービーを削除するのが最善です。

Pro Tools で認識されないムービー (Item#46792)

OS 9 からムービーを移行する際、Mac OS X QuickTime や DV ムービーは、.mov や .dv といった拡張子を失うことがあります。そのような拡張子を失ったムービー・ファイルが Pro Tools セッション内に存在する場合、それらのムービー・ファイルは正確に認識されず、結果として開かない事があります。回避策として、まずセッションを閉じ、手動で .mov や .dv とした拡張子を加え、その後再度セッションを開いてください。

Avid との相互運用性 /DigiTranslator

サンプルレート変換を使用して、Pro Tools から 59.94 ドロップフレーム AAF をインポートすると、Avid Media Composer 上でメディアがオフライン表示される (Item #81960)

Pro Tools から、サンプルレート変換とともに 59.94 ドロップ・フレームで AAF をエクスポートし、Avid MediaFiles フォルダ (Avid MediaFiles/MXF/1) に直接 MXF メディアを書き出すと、メディアは共有ストレージ環境内でオフラインになる可能性があります。メディアをオンラインにするには、Avid システム上で、メディア・ディレクトリをマニュアルでリフレッシュします。

MXF メディアを含む 59.94 ノンドロップ・フレーム AAF をインポートしたときに、Avid 内でメディアがオフラインになる (Item #81961)

Pro Tools から 59.94 ノンドロップ・フレームで AAF をエクスポートし、Avid MediaFiles フォルダ (Avid MediaFiles/MXF/1) に直接 MXF メディアを書き出すと、メディアは共有ストレージ環境内でオフラインになる可能性があります。メディアをオンラインにするには、Avid システム上で、メディア・ディレクトリをマニュアルでリフレッシュします。

ローカリゼーション一般

英語以外の文字を持つ AAF/OMF シーケンスをインポートすると、文字化けや再リンク不能を引き起こす (Items #95851, #95857, #96279)

Mac ベースの Pro Tools 7.3.1 システム (またはそれ以前) から、英語以外の文字を持つファイルまたはリージョンを含んだ AAF/OMF シーケンスをエクスポートすると、Avid Media Composer、XP ベースの Pro Tools システムまたは Pro Tools 7.4 システム (Windows または Mac) へ正しくインポートできない場合があります。逆に、全ての Pro Tools 7.4 (またはそれ以降) システムからエクスポートされた、英語以外の文字を持つ AAF/OMF シーケンスは、Mac ベースの Pro Tools 7.3.1 (またはそれ以前) システムへ、正しくインポートできない可能性があります。ファイルをリンクするためには、[手動で検索、再リンク] を選択して、[ファイル ID で見つける] 以外のオプションを全て外します。リージョン名は文字化けする場合があります。

アジア地域版の Pro Tools は英語 OS 上では起動できません (Item #59794)

コンピューターの OS が英語であると日本語版、韓国語版、及び中国語版の Pro Tools を起動する事ができません。この状況下で起動をすると下記のメッセージが表示されます: "To run Japanese version of Pro Tools, the Finder's system preferences International settings must be set to Japanese. Please refer to Digidesign's documentation to know more information." この問題を回避するには Finder の言語設定を正しい言語に設定し直す必要があります。

エラー・メッセージ

Pro Tools 起動時の -5000 (Unknown Error) エラー (Item #36130)

複数のパーティションのあるシステムで、それぞれのパーティションに違うバージョンの Interlok Pace がインストールされていると Pro Tools 起動時に "Unknown 5000 error" が発生します。全てのパーティションに同じ Pace のコンポーネントをインストールする事により、この問題は回避出来ます。

-6042 エラー

-6042 エラーが頻繁に発生する場合はシステム使用状況の PCI 使用状況を確認して下さい。このゲージがピークに達している場合は、PCI バスをリセットして下さい。PCI バスをリセットするには、全てのトラックを非アクティブにし、再生します。この状態でも -6042 エラーが発生し続ける場合は、Pro Tools を再起動し、プレイバックエンジン・ダイアログを開き、DSP チップ毎にかかるボイス数処理を、この設定上から減らして下さい。

プレイバック中にプラグインをアクティブ及び非アクティブに切り替える際に表示される -6074 エラー (Item #55049)

容量の大きいセッションにて、全てのプラグインをアクティブ及び非アクティブに切り替えると、Pro Tools 内で以下のエラーが発生する場合があります。“ The engine DSP ran into the TDM2 deadband. Too many I/Os to the TDM2 chip (-6074). ”この問題を回避するには、アクティブ及び非アクティブに切り替えるプラグイン数を減らして下さい。

FireWire Drive 上に録音している場合、あるいは単一ファイルのファイル・サイズが 2 GB に到達した場合の DAE Error -9073 (Item #42611)

FireWire ドライブへ録音中、2 GB のファイル・リミットに到達した時、本来表示されるべき “ Recording has been terminated because a disk is full ” というディスク上に空きスペースがなくなったため録音を継続できない旨のアラートの代わりに DAE -9073 が表示されます。このエラーは悪いものではなく、データの損失を示すわけでもハードドライブに問題があるわけでもありません。

FireWire Drive に録音している場合、あるいは単一ファイルのファイル・サイズが 2 GB に到達した場合、これ等が何れも該当しない DAE Error -9073

-9073 が発生した場合は、デジデザインのウェブサイト digidesign.com のアンサーベースにてその原因及び回避方法を確認して下さい。

DAE Error -9128

サンプルレートが高く (96 kHz 以上)、また複雑なオートメーションを伴う、もしくは多数の RTAS プラグインが使用されているセッションを再生中に、この -9128 エラーが生じる場合は、ハードウェア・バッファ・サイズを 512 以上に設定すると回避できる場合があります。

DAE Error -9131 (Item #92747, #20843)

GUID でパーティションされたドライブでは、OS X での起動時にサード・パーティション以上へレコーディングできません。GUID の代わりに Apple Partition Map を使用して、オーディオ・ドライブをパーティションしてください。

- または -

Pro Tools では、UNIX File System (UFS) フォーマット・ドライブへの録音 / 再生はできません。

DAE Error -9132 (Item #32397)

ハードウェア・バッファ・サイズ設定を最高値に設定しているにも関わらず、[ディスクヘバウンズ] 中に -9132 エラーが生じたら、セッション上に録音用のトラックを作成し、目的のトラックから内部バスを適切にアサインして、ディスクに録音してください。結果的にバウンズしたものと同一オーディオ・ファイルを使うことができます。

DAE Error -9155

ハイ・サンプルレート (96 kHz 以上) の複雑なオートメーションを伴ったセッションを再生中に、この -9155 エラーが生じる場合は、ハードウェア・バッファ・サイズを 512 以上に設定すると回避できる場合があります。

DAE Error -9735

Pro Tools がタイムラインの終点に到達した際、またはその論理的限界に達した場合、Pro Tools を最大タイム・リミットより長く継続して再生していると、このエラーが生じます。Pro Tools の最大タイムリミットは、セッションのサンプルレートに依存します。詳しくは、「Pro Tools リファレンスガイド」をお読みください。

Mac OS X 用 Pro Tools HD 7.4cs1 以降の D-Control の新機能

Mac OS X 用 Pro Tools HD 7.4.1 には、D-Control ワークサーフィス用のコントローラー・パーソナリティ及びファームウェア・アップデートが収められています。本リリースに収められているパーソナリティ及びファームウェアには、以下の新機能が含まれます。これらの機能の詳細は "D-Control Addendum 7.4.pdf" をご覧ください。このガイドの日本語版は、Digidesign のウェブサイトからダウンロードできます。


"Auto Write To" スイッチに関する変更

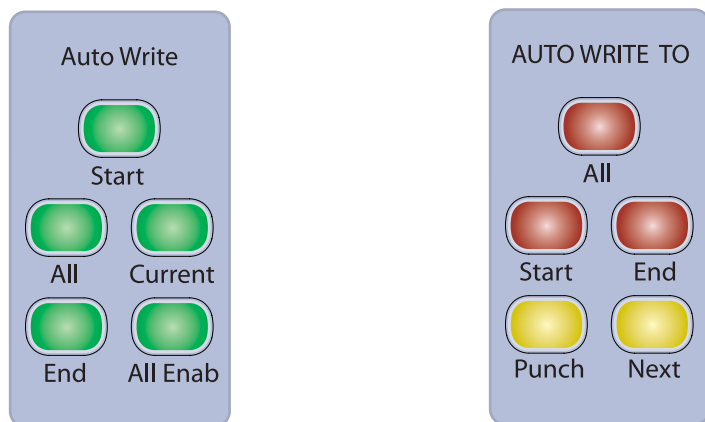
(全ての D-Control システム)

"Auto Write To" スイッチは D-Control 上で再配置されています。このスイッチの新しいマッピングには、Pro Tools オートメーション・ウィンドウにあるすべての手動書き込みコマンドと停止時書き込みコマンドが含まれています。

[Write/Trim/Glide to Current] コマンドと [Write/Trim/Glide to All Enabled] コマンドは、今まで通り D-Control のソフト・キーからも実行できます。

2007 年 10 月 1 日より前に D-Control を購入している場合は、メイン・ユニットの 2 つの [Auto Write] セクション (左右のチャンネル・ストリップ・マスター・セクションにある) をアップデートする Lexan オーバーレイが必要です。Lexan オーバーレイの入手方法については Digidesign のカスタマー・サービスにお尋ねください。(03-3505-4762 #30)

 以下のスイッチの LED の色は D-Control ES のものです。



D-Control にマップされた新 (右) / 旧 (左) "Auto Write To" スイッチ

ソフト・キー・セクションに関する変更

(全ての D-Control システム)

D-Control のソフト・キー・セクションでは、D-Control 上の [Auto Write To] スイッチが新しく配置されたことに伴い、[Actions] スイッチと [Modes] スイッチで呼び出すソフト・キーが、既存コマンドのまま新たにレイアウトされました。

デュアル・トランスポート・モード

(全ての D-Control システム)

Digidesign MachineControl があれば、D-Control をデュアル・トランスポート・モードにして、2 つ目のトランスポート・コントロール ([Machine Transport] と表記されているセクション) が使用できます。デュアル・トランスポート・モードは、MachineControl を使ってトランスポート・コントロールの上位にあるセットを、9-ピン機器または MMC 機器へアサインします。

- ・ デュアル・トランスポート・モードでは、トランスポート・マスターの [Transport=Pro Tools]、[Transport=Machine]、[Transport=MMC]、[Transport=Remote] への切り替えを、D-Control のトランスポート・スイッチにより直接行えます。
- ・ シングル・トランスポート・モードでは、トランスポート・マスターの切り替えを、トランスポート・モード・コントロールの [Machine Online] スイッチにより行います。

D-Control の新しい初期設定により、シングル・トランスポート・モードとデュアル・トランスポート・モードの切り替えが行えます。

LED テスト・モードのカラー変更

(D-Control ES のみ)

D-Control の Utility モードの LED テストは、D-Control ES の新しい配色に従って D-Control のスイッチの LED を点灯させます。

D-Control マルチ・モード

(Comm ボードをアップデートした D-Control のみ)

Pro Tools HD 7.4cs1 には *D-Control* を「マルチ・モード」にする機能が追加され、1 台の D-Control コンソールでネットワーク上の Pro Tools!HD システムを 4 つまで操作できるようになりました。マルチ・モードでは、D-Control コンソールのスイッチを 1 つ押すだけで、操作する Pro Tools システムを切り替えることができます。

マルチ・モードの互換性

D-Control のマルチ・モードは、Pro Tools 7.4 用のシステムの一部として機能します。詳しくは Digidesign のウェブサイト (www.digidesign.com/compatibility) の互換性のページをご覧ください。

▲ Windows 用 Pro Tools システムは D-Control のマルチ・モードには対応していません。

D-Control のマルチ・モードは、最新の Comm ボードを持つメイン・ユニットとフェーダー・ユニットで構成された D-Control コンソールでのみ使用できます。

D-Control 本体の Comm ボードのアップデート方法については Digidesign のカスタマー・サービスにお問い合わせください。(03-3505-4762 #30)

D-Control ユニットの Comm ボードのバージョンを調べるには :

- 1 Pro Tools が起動している場合は、Pro Tools を終了します。
- 2 D-Control ユニットの電源を切ります。
- 3 フォーカス・チャンネル・ストリップ (メイン・ユニット) または一番左のチャンネル・ストリップ (フェーダー・モジュール) のスイッチ [Select]、[Solo]、[Mute] を押さえて D-Control ユニットの電源を入れます。これによって特別な「ブートローダー」モードでユニットが起動します。
- 4 ユニットの電源が入ったら、以下のいずれかの方法でユニットを Utility モードにします。
 - メイン・ユニットのセッション管理セクションの [Utility] スwitchを押します。
 - フェーダー・モジュール左下にある修飾キーを、Shift + Alt/Command + Win/Option の順に押さえます。
- 5 [System] と表示されているソフト・キー (メイン・ユニット) またはエンコーダ・セレクト・スイッチ (フェーダー・モジュール) を押します。
- 6 [FW ver] と表示されているソフト・キー (メイン・ユニット) またはエンコーダ・セレクト・スイッチ (フェーダー・モジュール) を押します。
- 7 そのユニットのチャンネル・ディスプレイに、Comm ボードのファームウェアのバージョンが表示されます。
 - Comm ボードのファームウェアのバージョンが [b7.2.0.92] であれば、Comm ボードは現在のものであり、マルチ・モードに対応しています。
 - Comm ボードのファームウェアのバージョンが [b2.59] であれば、Comm ボードは現在のものではなく、マルチ・モードには対応していません。
- 8 Utility モードを解除し、D-Control ユニットの電源を入れ直してノーマル・モードで起動します。